

2023 年度

授 業 概 要

日本女子大学通信教育課程



日本女子大学

JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

構 成

授業概要とは／授業概要の活用方法（必須事項）／注意事項／備考

授業概要の見方

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）シラバス参照用D Pコード

「テキスト科目」学習の進め方（一般的な例）

「スクーリング科目」受講に向けての準備

基礎科目

教養科目

学部共通科目

児童学科科目

食物学科科目

生活芸術学科科目

軽井沢卒業セミナー科目

教職に関する科目※児童学科と共通の科目を除く

司書教諭に関する科目

授業概要とは

授業概要とは、各授業科目の概要や到達目標、授業計画等を学生向けに示したものです。日本女子大学家政学部通信教育課程では、授業科目名、担当教員名、概要、到達目標のほか、テキスト科目・スクーリング科目固有の項目に基づき、各授業担当教員が作成しています。

授業概要の活用方法（必須事項）

- ①履修登録に際してのガイド
- ②テキスト科目履修にあたっての補助教材
- ③スクーリング科目受講にあたっての準備の指針

注意事項

- ・「卒業論文」の掲載はありません。『履修の手引』を参照してください。
- ・原稿作成時以降にテキスト・教科書の情報に変更が生じることがあります。

テキスト科目のテキストは『履修の手引』を、
スクーリング科目の教科書は「授業概要」の“受講にあたって”②使用教科書を
必ず確認の上、購入してください。

- ・原則として内容に関する質問・問い合わせには応じられません。
- ・他大学(院)等への進・入学時に本学家政学部通信教育課程で履修した授業科目のシラバスの提示を求められる場合があります。他大学(院)等への進入学を検討している学生は、各自履修した科目の授業概要を保存しておいてください。

備 考

当初の授業計画どおりにスクーリング授業を実施できないと担当教員が判断したり、担当教員が交替となったりした場合には、授業概要の一部又は全部を変更することがあります。その際は当該科目の授業概要のみ差し替え、HPに掲載します。

授業概要の見方

科目表種類／系列	略称-整理番号
授業科目名 (テキスト科目／スクーリング種類)	担当教員： ○○ ○○
○年次～ ○単位 【 】	開講種類／○○年度
概要	
授業の方法	
学位授与方針との関係	
到達目標	

《共通》

《テキスト科目》

《スクーリング科目》

学習の進め方	授業計画
内容	受講にあたって
テキスト・参考書	①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間 事前課題
①テキスト	②使用教科書
②参考書	③参考書
成績評価	④持参 (準備) するもの
①レポート	⑤成績評価
②科目修了試験	⑥学生へのメッセージ
その他	

《共通》

科目表種類／系列 略称-整理番号

基礎科目・教養科目・学部共通科目・各学科科目・教職に関する科目・司書教諭に関する科目、それぞれの科目表の種類と系列を示します。右肩に各科目表の略称と整理番号を記載しています。

授業科目名 (テキスト科目／スクーリング種類)

授業科目名及び開講種類 (スクーリングは実施時の種類) を示します。

担当教員 当該授業科目を担当する教員の氏名を示します。

○年次～ 登録・履修できる年次を示します。それより上の学年の学生も履修できます。

○単位 必修・選択必修・選択の別と単位数を示します。

【 】 各学科科目のうち、当該学科で取得できる資格等にかかる科目に資格名等を付記しています。

開講種類／○○年度開講の種類 (テキスト科目又はスクーリング科目) と開講年度を示します。

授業の方法

テキスト科目は教材に基づいての学生主体の授業です。【印刷教材等】と表記されます。

スクーリング科目は、下記のように3種類あり、それぞれを組み合わせることもあります。

- ・【面接】：対面で授業を行います。
- ・【オンデマンド型】：manaba を利用。講義動画視聴することで学び、小テストや課題提出による理解度確認や質疑応答、履修生同士の意見交換等を行います。
- ・【同時双方向型】：manaba とともに、Zoom、Microsoft Teams を利用。リアルタイムで配信される講義や双方向での議論を通して学びます。小テストや課題提出による理解度確認や質疑応答、履修生同士の意見交換等を行います。

学位授与方針との関係

授業の到達目標に対応する学位授与方針 (DP) コードは、科目により「大学全体 (大学DP)」、「家政学部通信教育課程 (家共DP)」、「各学科 (児童DP、食物DP、生芸DP)」から記載しています。「家政学部通信教育課程 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) シラバス参照用DPコード」から内容を確認できます。

《テキスト科目》

学習の進め方	標準的な学習の進め方を示します。
内容	原則として15週の授業に相当する項目に分け、学習する内容を示します。テキストの構成に従って記している科目もあります。
テキスト・参考書	指定する①テキストと、②参考書を掲載します。
成績評価	①レポートと②科目修了試験に分け、それぞれの評価を示します。
その他	当該科目を履修する上で、学生に求められることなどを記しています。特になければ項目自体を省いています。

《スクーリング科目》

授業計画	15週(30時間)又は8週(15時間)の授業に相当する項目に分け、授業計画を示します。
受講にあたって	スクーリング授業に出席するにあたり必要な準備、指定する教科書等を以下の項目に分けて記しています。
①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間	
事前課題	事前課題を課す科目のみ掲載しています。
②使用教科書	
③参考書	
④持参(準備)するもの	
⑤成績評価	
⑥学生へのメッセージ	特になければ項目自体を省いています。

★授業の方法(面接授業・遠隔授業)が変更になる場合など、授業概要が修正されることがあります。

家政学部通信教育課程 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） シラバス参照用DPコード

授業概要の「学位授与方針との関係」では、授業の到達目標に対応する学位授与方針（DP）をDPコードで記載しています。

○大学全体（大学DP）

日本女子大学は、建学の精神及び本学が育成する学生像を踏まえて、本学の教育と学修を通して学生が次の能力を修得することを学位授与の方針としている。

- ・DP1) 建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
- ・DP2) 強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
- ・DP3) 自ら新たな課題を発見し、専門知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
- ・DP4) 他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる

○家政学部通信教育課程（家共DP）

- ・DP1) 人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
- ・DP2) 生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識をもって社会に貢献することができる。
- ・DP3) 現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。

○児童学科（児童DP）

	DP1) 知識・理解	DP2) 思考・判断	DP3) 関心・意欲・態度	DP4) 技能・表現	DP5) その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> 心理・教育・健康・文化・社会の5領域からなる児童学の幅広い知識を持ち、子どもを理解することができる。 子どもに関わる諸問題に対し、専門的知識を持って課題解決に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多角的な視野から子どもに関する知識を持ち、的確な子ども観を形成できる。 子どもや社会に関する諸問題に関してどのような解決ができるか自ら考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体性を持って更に学びを深めていくことができる。 実際に子どもから学ぶ姿勢を持つことができる。 自ら必要な学びを積み重ね、内省し、次の行動に生かすことができる。 他者の意見に耳を傾け協働することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな形態の学習を通して得た情報を生かし、自らの見解をわかりやすく伝えることができる。 	

○食物学科（食物DP）

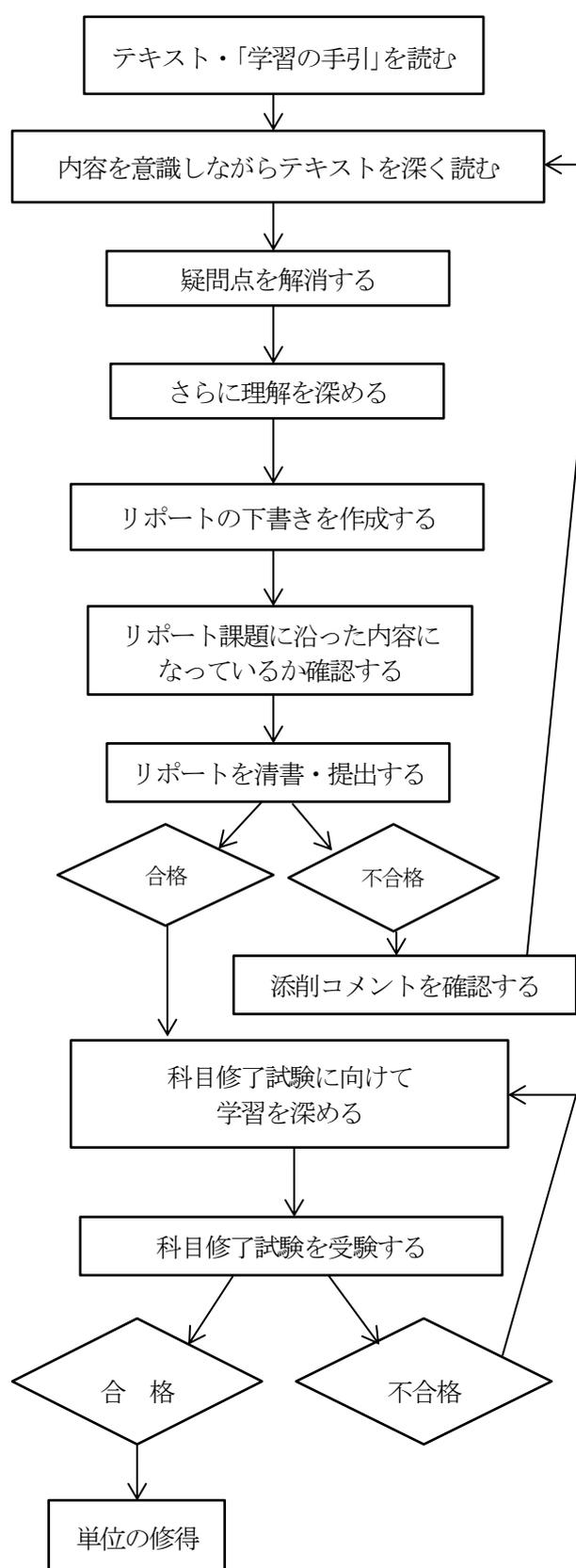
	DP1) 知識・理解	DP2) 思考・判断	DP3) 関心・意欲・態度	DP4) 技能・表現	DP5) その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> 食品、栄養、調理を中心とした食と生活に関わる諸科学を広く学び、それらを問題解決に応用することができる。 多面的な視点から食物を総合的に理解するスペシャリストとして必要な知識・能力を有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題をとらえ、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。 食生活に関する様々な情報に対して、正しい判断ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門分野の知識を生活および社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために生かして社会に貢献したいという意欲を有する。 食物の生活や社会に及ぼす影響や効果を説明でき、食に関する様々な問題の解決に積極的な姿勢を有する。 様々な考えの人と協働し、食生活の改善に取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するために創造し、表現することができる。 論理的に記述し、的確に表現することができる。 自分の考えをわかりやすく発表することができる。 	

○生活芸術学科（生芸DP）

	DP1) 知識・理解	DP2) 思考・判断	DP3) 関心・意欲・態度	DP4) 技能・表現	DP5) その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> 科学的・文化的・芸術的な広い側面から生活の質の向上に役立つ、被服学と住居学の基礎並びに関連諸分野の知識を習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活や住生活の課題に対して、実践可能な解決策が構想できる。 文化的、芸術的視点から独自の感性や美意識を深められる。 生活の変化や多様化を敏感に捉えて、快適な生活環境の方向性を判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活・住生活の質の向上に関心を持ち、社会における自らの役割と責任を自覚できる。 衣生活や住生活環境をライフスタイル、安全性、快適性などから多角的に捉えて、様々な人々とのコミュニケーションや協働が意欲的に行える。 	<ul style="list-style-type: none"> 快適な生活や環境の実現に向けて、具体的な方法や工夫を反映できる。 提案や成果物を他者にわかりやすく表現し説明できる。 	

「テキスト科目」学習の進め方（一般的な例）

教材（テキスト）による授業が「テキスト科目」です。その学習の進め方の例を以下に記します。ひとりでの学習が基本となりますので、科目の特性や学生自身の生活に合わせて着実に学習を進めましょう。

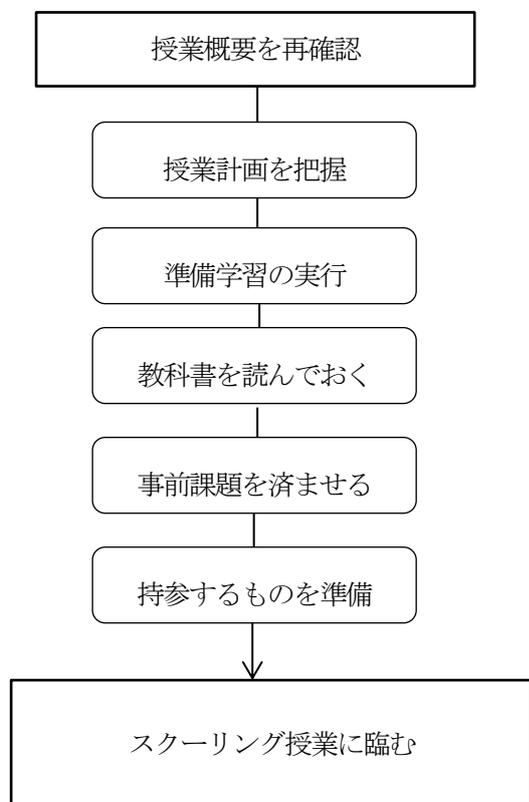


- (1) テキストをひととおり読む。「学習の手引」を熟読する。
- (2) テキストの構成に従い、テーマや内容を意識して深く読む。ポイントと思われる部分や疑問を持った部分を書き出しておく。
- (3) テキスト・参考文献で学習し、質問票により疑問点を解消する。
- (4) 『レポート課題集』の課題を確認し、レポートの内容を構想しながらテキストを再読する。参考文献にあたり、学習をさらに深める。
- (5) 『レポート課題集』・「学習の手引」を参照しながら、レポートの下書きを作成する。
- (6) 下書きレポートが課題に沿ったものになっているかテキストや参考文献を参照しながら確認する。
- (7) 指定の用紙により提出用レポートを作成し、提出する。
- (8) レポート不合格となった場合は添削内容（コメントを含む。）を確認し、テキストを改めて学習した上でレポートを作成し直し、再提出する。
- (9) レポートに合格したら、科目修了試験を申し込む。科目修了試験に向けてテキスト・参考文献により学習する。返却されたレポートを読み直し、添削内容（コメントを含む。）に応じてさらに学習を深める。
- (10) 受験許可を得られた科目を登録した試験場で受験する。科目修了試験に不合格となった場合は改めて学習し、次回の科目修了試験に備える。質問票を利用してもよい。
- (11) 科目修了試験に合格し、単位を修得する。

「スクーリング科目」受講に向けての準備

面接又はメディアを利用して行う授業が「スクーリング科目」です。

スクーリング科目では原則として準備学習を課しています。履修が確定され次第、早めに準備を進めましょう。



(1) 授業概要により準備学習・事前課題の内容を確認する。使用教科書が指定されている場合は購入し、事前に読んでおく。

(2) 授業概要掲載の内容に即して準備学習を実施し、事前課題を作成する。レポート形式での課題提出を課されている科目で特に指定のない場合は、レポート1ページ目に「授業科目名」「学籍番号」「氏名」を明記し、指導教員の指示に従って提出する（原則として授業初日に提出）。

(3) 授業概要「受講にあたって」の④準備するものを必ず確認し、用意しておく。

※モバイルの検索機能等を電子辞書代わりとすることはできない。

参考：成績の評点及び評価の基準

合否	合 格					不 合 格	
評価	A ⁺	A	B	C	P	F	X
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	合格	59点以下	評価なし
評価の基準	到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績	到達目標を十分に達成できている優れた成績	到達目標を達成できている成績	到達も目標を最低限達成できている成績	段階なし	到達目標を達成できていない成績	評価なし